



名古屋市食育推進計画（第4次）（案）に対する 市民意見の内容及び市の考え方

1 意見募集期間

令和2年12月28日（月）～令和3年1月28日（木）

2 意見提出状況

意見提出者数：6名 意見総数：13件

意見提出方法

郵 送	F A X	電子メール	持 参	計
0名	3名	0名	3名	6名

3 意見の内訳

（1）施策の展開に関すること

- ・全体（5件）
- ・食育の総合的推進（3件）
- ・ライフステージに応じた健康寿命の延伸につながる生活習慣や食習慣の定着の推進（3件）
- ・環境に配慮した食育の推進（1件）

（2）その他

- ・パブリックコメントの実施方法（1件）

＜意見の概要及び市の考え方＞

（１）施策の展開に関すること

全体（５件）

【市民意見の概要】

食育とは食物の命をいただいて、自分が生かされているということ、食物で健全な食生活を送るために幼児の時からバランスよく食べてものの大事さを楽しく学んでほしい。

【市の考え方】

食が自然の恩恵の上に成り立ち、多くの人々の努力によって支えられていることに感謝することは非常に重要であると考えており、本計画では、基本目標３として「自然や生産者等への感謝の念を育み、環境にやさしい食生活を実現」を掲げております。

また、健全な食生活を実践するため、ご指摘のとおり、子どものうちからバランスよく食べてものの大事さを楽しく学ぶことができるよう、妊産婦や乳幼児等に関する食育の推進をはじめ、ライフステージに応じた普及啓発を行ってまいります。

【市民意見の概要】

６つの基本的施策と食育推進にあたっての数値目標がどのように対応しているのかわかりにくいと思います。

【市の考え方】

６つの基本的施策については本計画の２０ページに、１３の数値目標については２１ページにおいてお示ししております。

この６つの基本的施策と１３の数値目標は、それぞれが複合的に関係しておりますが、ご指摘を踏まえ、基本的施策と数値目標の主な対応関係をお示しするよう、修正させていただきます。

【市民意見の概要】

健全な食生活とはどのような食生活ですか。具体例を示していただけると助かります。

この「健全な」という言葉には持続可能なフードシステムも含まれているのでしょうか。

【市の考え方】

健全な食生活とは、1日3食、主食・主菜・副菜を揃えたバランスのよい食事を摂ることや食を通じてコミュニケーションを図ることなど、健康で心豊かな生活の実現につながる食生活のことを言います。

ご指摘の持続可能なフードシステムの意義については、様々なものがあると認識しておりますが、本計画において、「農」とのふれあい、地産地消等の推進や、環境にやさしい食生活の推進などに取り組むこととしており、こうした取り組みが、環境への配慮や自然への感謝、食べ物を大切に思う気持ちにつながるものであり、広い意味で健全な食生活に含まれるものと考えております。

【市民意見の概要】

第3次迄しっかりと実行されていても食育の関心度が若い人に少ないのは①忙しい②夜が遅い為朝食抜く（時間がない）③面倒。

子供には市販の弁当、おにぎりや昼の給食を当てにしているから。

P T A、老人夫婦は、友達とのふれあいで外食。

勤務の人は会社の食堂、費用安い。

今の時代は家庭は宿、コミュニケーションは殆どないそうです。

「食育とは」強烈的な啓発しなければ若い人には通用しないと思います。

【市の考え方】

誰もが健全な食生活に関心を持ち、心がけ、実践に至るようにするには、訴求力のある効果的な普及啓発が必要であると考えており、ご指摘の若い世代に対する食育の推進について、本計画においても重点的に取り組む事項として掲げているところです。

具体的な方策としましては、各種広報媒体やイベント等の機会を活用して、市民の食育に対する関心を高め、主体的な行動につながるよう取り組むとともに、SNSを活用した啓発のほか、ご指摘の会社の食堂などで、優れた食環境づくりが進んでいくよう、新たな手法も取り入れつつ、新型コロナウイルスを想定した「新しい生活様式」への対応も含め、幅広い分野にわたる食育について総合的な啓発を図ることとしております。

【市民意見の概要】

掲げた目標と現状とのギャップの要因、その背景に何があるか、総括する記述が見当たりません。そして次期計画でも同じ項目と数値目標が掲げられています。それで良いのでしょうか。

数値目標の項目はどれも「〇〇ている市民の割合」となっています。市民の食生活習慣を変えようとする目標は大切ですが、これでは展開する施策の多くが「啓発」活動になり、市の施策が見えてきません。名古屋市として市民の食生活改善につながる施策こそ計画で示し、市民への啓発計画ではなく、市の施策実施計画を中心に据えるべきです。

【市の考え方】

第3次計画の数値目標がいずれの項目も達成できなかったことについて、その主な要因は、若い世代の食育に対する関心・実践の状況が芳しくないことにあり、背景には、世帯構造の変化や食の外部化といった社会状況の変化があるものと捉えています。そのような認識のもと、「若い世代や健康無関心層も含む、誰もが健全な食生活に関心を持ち、心がけ、実践できることをめざす必要がある」と総括し、本計画において、「若い世代に対する食育の推進」を重点的に取り組む事項として掲げております。

本計画における数値目標については、第3次計画の数値目標がいずれも達成できなかったことや、食育の取り組みは市民の皆様の意識変容・行動変容をめざすものであるため、粘り強く継続的に取り組んでいく必要があることを踏まえ、第3次計画の数値目標を基本的に引き継ぐこととしました。

「市民への啓発計画ではなく、市の施策実施計画を中心に据えるべき」との点につきましては、食育は、「食に関する知識と食を選択する力を習得し、健全な食生活を実践できる人間を育てる」こととされ、また、食育推進計画は、本市の食育推進に関する基本的な事項を定めるものであることを踏まえ、本計画においては、食育に関する普及啓発の取り組みを中心に、関係機関、団体など多様な関係者と連携しながら食育に関連する施策を推進することとしておりますので、ご理解いただきますようお願いいたします。

食育の総合的推進（３件）

【市民意見の概要】

市民へのPRを強化するためマスコミを利用すべき。

【市の考え方】

市民の食育に対する関心を高め、主体的な行動につながるよう、幅広い分野にわたる食育について総合的な啓発を図る際、いわゆるパブリシティとして、本市の取り組みをマスメディアで取り上げていただくことは、非常に重要であると考えております。

これまでも市政記者クラブへの資料提供などを適宜行ってまいりましたが、今後も引き続き、機会をとらえて働きかけを行ってまいります。

【市民意見の概要】

一緒に食事することが現在難しい状況です。食事をするということにこだわらず「食」の共有という考え方を取り入れてはいかがでしょうか。

【市の考え方】

ご指摘いただきました、「食」の共有については、「食」に関する経験や知識を共有することであると捉えており、食の大切さや食べることの楽しさを実感できることにつながるものとして、非常に重要であると考えております。

本市では、「食」の共有につながるものとして、食育ウェブサイト「なごや食育ひろば」において「食」に関する情報提供を行っているほか、保健センター等で実施している料理教室や講習会等について、現在はコロナ禍の影響により中断しているものもありますが、今後は、感染回避を考慮した方法により実施してまいりたいと考えております。

また、コロナ禍の影響を踏まえた食育施策の推進が必要であることから、本計画の「考慮すべき事項」として、「新しい生活様式」への対応を掲げており、食事における「新しい生活様式」の実践例の普及に努めていくこととしております。実践例の普及にあたっては、ご指摘のような観点も踏まえながら、工夫してまいりたいと考えております。

【市民意見の概要】

コロナ禍での「新しい生活様式」と「食を通じたコミュニケーション」との矛盾が気になります。楽しくおしゃべりしながら食事をとることの大切さはその通りですが、現状を踏まえて、発信するメッセージは、残念ながら「黙食」のすすめになるのでしょうか。外食、中食、内食の位置づけなど、コロナ禍での食育について、もう少し詳しく展開して記述してください。

【市の考え方】

本計画では、基本目標2として「食を通じたコミュニケーションにより、食の大切さや楽しさを実感」を、数値目標として「家族等の誰かと一緒に食事をする市民の割合」を掲げており、コロナ禍においても、食を通じたコミュニケーションは引き続き大切なことと考えておりますが、一方で、感染拡大にも留意する必要がある、「考慮すべき事項」として「新しい生活様式」への対応を掲げ、感染拡大防止と食を通じたコミュニケーションの両立を図っていくこととしております。

国が示した「新しい生活様式」の実践例においては、持ち帰りや出前、デリバリーの活用が含まれるとともに、会食の場面においては、「大皿を避けて、料理は個々に」「対面ではなく横並びで座ろう」などとされていることを踏まえ、本計画においても、外食、中食、内食のそれぞれの場面におけるそうした取り組みの優れた実践例を収集し、周知啓発していくこととしておりますので、ご理解いただきますようお願いいたします。

ライフステージに応じた健康寿命の延伸につながる生活習慣や食習慣の定着の推進（3件）

【市民意見の概要】

朝食を毎日食べている子どもたちの割合が低下しています。保育・教育現場での実践、保護者への啓発も大切ですが、「朝食がつかれない、食べられない」背景を探ることが必要です。朝食に関する大規模な調査を計画期間ごとに行うことを求めます。市として保護者の経済的負担を軽減し、少しでも生活に余裕をもてるようにする施策を行い、あわせて社会全体で応援してるよ、と保護者を励ますメッセージをおくりましょう。そのために、給食無料化がいちばんシンプルで効果的な施策ではないでしょうか。

【市の考え方】

小中学生の朝食摂取の状況については、国において毎年実施されている「全国学力・学習状況調査」の結果にて把握しております。

また、令和元年度に実施しました「食育に関するアンケート調査」の結果からは、毎日朝食をとっていない方が朝食をとらない理由として、「食欲がわからない」「食べる時間がない」「朝早く起きられない」という回答が多くなっております。

給食無料化については、まず、保育所等の食材料費は、在宅で子育てをする場合でも生じる費用であることなどから、国においても、保護者負担が原則とされているところです。なお、低所得者世帯等及び第3子以降の子どもについては、負担軽減の観点から、食材料費の一部の徴収が免除されています。

次に、小中学校の学校給食費については、国においても、給食に必要な施設設備や運営に伴う人件費などの調理に関わる経費を学校設置者が負担し、その他の経費は保護者が負担することとしています。本市では、給食費として保護者の方に食材料費相当額のみ負担いただいております。こちらについても、経済的に困りの保護者の方には、就学援助制度を利用することにより、給食費を無料としております。

【市民意見の概要】

「福祉の視点による食育の推進」が位置づけられていますが、どれも「継続」です。食生活が貧困なのでなく、生活の貧困から毎日3食を満足にとれない市民が増えています。民間団体が行っている食料支援の取り組みが市民の食と命を支える命綱になっています。コロナ禍でバイトもできない学生への食料支援も活発です。街頭での炊き出し活動も続いています。

子ども食堂の広がりには象徴されるこうした状況を踏まえ、食育の前提である安心して誰もが3食とれるように、貧困問題の解決を計画でも展開すべきです。

【市の考え方】

食育は、「食に関する知識と食を選択する力を習得し、健全な食生活を実践できる人間を育てる」とこととされていますことから、市民の皆様の意識変容・行動変容をめざすことを中心に取り組んでいるものでございます。

いただいたご意見については、関係局で情報共有しながら、食育の推進に努めてまいります。

【市民意見の概要】

災害時の避難所でも、清潔で栄養バランスが取れた温かい食事を提供することを目標に掲げてください。そのためにキッチンカー業界との協力を進めることやコロナ禍で始まったテイクアウトの取り組みを災害時にも活用することなど、市民・事業者と連携して、備蓄ばかりに頼らない災害時の食について検討研究を進めてください。取り組むべき課題として一項目おこすだけの価値があると思います。

【市の考え方】

「災害時の食の備え」についての記述を本計画に掲載しておりますとおり、大規模な災害が発生すると、水、電気、ガスなどのライフラインが途絶え、食料品の入手が困難になることが予測されることから、災害時の食とその備えについては非常に重要であると考えております。

いただいたご意見について、関係局と情報共有させていただくとともに、食育の取り組みとしましては、上記内容の周知啓発に努めてまいります。

環境に配慮した食育の推進（１件）

【市民意見の概要】

現在日本では、まだ食べられる食品が多く捨てられていると聞きます。世界の中では、食料事情が非常に不安定な国は多くあり、多くの食料を輸入に頼る日本としては、子どものころから「もったいないので食品は、捨てない。」、食品は「買いすぎない、作りすぎない、食べ残さない。」という意識を広めていくことは重要です。

そこで、名古屋市におかれましては、家庭や教育現場で啓発を実施していただくとともに、飲食店を利用するときにも、食べきれる量だけ注文し、食べ残しをしないような啓発を実施していただきたいと思います。

家庭の中でも、冷蔵庫内を調べて買い物しましょう。

【市の考え方】

ご指摘のとおり、国際的には、深刻な飢えや栄養不足の問題が存在する一方で、国内においては、本来食べられるにも関わらず捨てられてしまう「食品ロス」が大量に発生しているのが現状であり、そうした問題への意識を広めていくことは、重要であると考えております。

これまで本市では、第３次計画において、平成 29 年度に市全体の共通テーマとして「食品ロスを減らそう」をキャッチコピーに啓発を行ったほか、食品ロスの削減を促す募集企画・動画配信など市民参加型の啓発や小学校において食の大切さを伝える食育にも取り組んでまいりました。

環境にやさしい食生活の実現のため、食べ残しなどの食品ロスをはじめとした生ごみを抑制する取り組みを推進することとしており、「買い物前の冷蔵庫の在庫チェック」など家庭でできる食品ロス削減の取り組みの周知や、飲食店等での食品ロス削減の取り組みの周知を行ってまいります。

（２）その他

パブリックコメント等の実施方法（１件）

【市民意見の概要】

市民からの意見を待つだけでなく地域役員の一部へ事前に資料を送付の上、意見収集をしてはどうか。

【市の考え方】

本計画を策定するにあたっては、パブリックコメント等において、市民の皆様から幅広く様々なご意見をいただくことが非常に重要であると考えております。

意見収集の方法については、ご指摘のような手法も含め、工夫してまいりたいと考えておりますので、ご理解いただきますようお願いいたします。